

## 赤い羽根共同募金 今ある活動を「そだてる」助成 活動成果報告書

○申請法人・団体名：一般社団法人群馬ライトスクール

○企画名：視覚障害者の特性を生かしたあん摩マッサージ指圧師・鍼灸師等の就労支援と社会貢献

○配分額：3年間合計3,000,000円

(1年目1,000,000円、2年目1,000,000円、3年目1,000,000円)

○課題認識・解決の目標

(1) 課題認識

①障害者の法定雇用率が引き上げられても、視覚障害者の就労はむしろ厳しさを増している。とりわけ、視覚に障害のある方々があん摩マッサージ指圧師（あま指師）・鍼灸師の資格を得ても、健常者の有資格者が大量に労働市場に流れ込む中で、資格や能力を生かした就労は非常に困難である。彼らの能力が、社会において十分に活用されていない現状がある。

②あま指師・鍼灸師以外の就労も大変難しく、視覚障害者が社会の中でその能力を発揮する機会是非常に限られている。そうした状況の中で、様々な悩みや閉塞感、不安を感じながら生きている視覚障害者やそのご家族がいらっしゃるが、支援のシステムが十分ではない。

(2) 解決の目標

①視覚に障害のあるあま指師・鍼灸師の有資格者のうち、東洋医学的資質を有する人材を核として、前橋市内に治療院を開設し、地域住民の方々への啓蒙的サービス事業を展開しつつ、盲学校在校生・卒業生及び教員の研修受け入れ、東洋医学や経絡治療の勉強会・セミナー等を実施するなどして、視覚に障害のある方々の特性を生かした施術形態を見出していく。

②あま指師・鍼灸師以外の職域を考え、視覚障害者の就労の選択肢が増えるようにする。また就労に至らなくても、視覚障害者の潜在能力を生かし、社会に貢献できる分野を見出していく。さらに、こうした厳しい状況の中で様々な悩みを抱える視覚に障害のある方々とそのご家族のために、専門性を生かした相談活動ができるようにする。

○3年間の取り組み

〈1年目〉

・9月に盲学校の卒業生を施術者として迎え、鍼灸あん摩治療院「耀学舎」を開設し、就労支援を開始した。また、地域の方々を対象としたあん摩の無料体験会、視覚に障害のある方とご家族を対象とした東洋医学セミナーを実施した。

・当初は想定していなかったが、盲学校卒業生からの相談が3件あり、その内の1件はあん摩業を失業した方からだった。生活・職業訓練の希望があり、新たな就労先が見つかるまで支援を続けることができた。



〈生活・就業訓練（あん摩業）〉

### 〈2年目〉

・コロナ蔓延に伴い、地域のあるん摩体験会は縮小を余儀なくされたが、治療院の利用者そのものは増加し、施術者の生活は安定し、職業自立は達成された。東洋医学セミナーは薬膳をテーマに行われ、参加者も増加した。11月には、昭和町伝統医療研究会が発足し、視覚に障害がありながらも高い技術で施術に当たる治療家の治療院を訪ね、経絡治療の研究・研修が始まった。

・盲学校卒業生の職能訓練、生活訓練・相談、在校生の治療院見学・治療実習等の希望があり、相談機能が高まった。



〈昭和町伝統医療研究会〉

### 〈3年目〉

・治療院における卒業生の就労支援は2年半が経過し、1月には独立営業に移ることができた。3月には、盲学校専攻科卒業予定者からの就労希望があり、国家試験に合格した場合は本法人の治療院で働くこととなり、次年度より新たな就労支援が始まることとなった。

カウンセリングの有資格者（全盲の方）が試行的にカウンセリングを開始した。また本法人の経理を担当する弱視の方が、顧問税理士の指導を受けると共に、フィナンシャルプランニングの資格を取るなど、スキルアップをすることができた。

・法人の知名度が高まるにつれて、相談件数も飛躍的に増加した。



〈理事会・事務局メンバー〉

### 〈総括〉

・この3年間で、視覚に障害のあるあま指師・鍼灸師の就労支援の成果が確認でき、また、視覚に障害のある治療家のための東洋医学（経絡治療）の研修・研究組織もでき、法人としての支援の方向性が定まった。また、地域住民の方への一定の啓蒙活動もできたように思う。

また、経理やカウンセリングといった他分野でも、視覚に障害のある方の活躍の場を設けることができた。

### ◎ステークホルダーの変化

・就労支援に関して、盲学校との関係がさらに強くなった。卒業生を受け入れるばかりではなく、将来について考える視覚に障害のある方に、盲学校専攻科（鍼灸あん摩の課程）を紹介するなどのサイクルができてきた。また、法人が有する専門性を、盲学校や群馬県視覚障害者福祉協会に提供する機会も増えた。3年目にはJRPS（網膜色素変性症の会）群馬支部からの連携依頼があり、本法人で学習会が開催されるなど、交流が始まった。また、昭和町伝統医療研究会は発足以来10回開催され、群馬県下の視覚に障害のある経絡治療の施術者からご教授を受け、専門性を深める機会を頂いている。

・当初はあまり想定していなかった本法人への当事者からの相談件数は1年目が3件。2年目が6件、

3年目が27件に増え、カウンセリング事業も開始される中で、今後も増えることが予想される。視覚に障害のある方の資格取得に関しては、点字図書館によるテキストの音声化によって可能となった。

◎できなかったこと、今後の課題

- ・盲学校の卒業生の支援は一定程度行うことができたが、在校生・教員の研修場所としての機能は、保険等の制約があり、十分に果たすことができなかった。教員が一般の方々に施術をするのではなく、教員同士の施術研修という形を取るなどして、皆が利用しやすい場所としたい。

- ・就労支援に関して、鍼灸あん摩マッサージ指圧師以外の就労分野の開拓が十分にはできなかった。今後もその壁は厚く非常に困難であると感じているが、一方で、完全就労には至らないまでも、障害の特性や個々の潜在能力を見出しながら、生きがい創造を多分野で行える感触を得ることはできた。その方向から今後も支援を続けてみたい。また、そうした中で就労の可能性を見出していければと思う。

- ・相談機能の役割分担ができていない。今後はより組織的に動けるように、分掌組織を考えていきたい。